



発行 認定NPO法人 児童虐待防止協会

〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4-15 大阪府社会福祉会館3F tel 06-6762-4858 fax 06-6762-4884 ホームページ <http://www.apca.jp>

APCA通信のこれまでとこれから

～何を発信してきたか～

児童虐待防止協会は、1990年5月に電話相談を主な事業として、関西テレビと大阪府の協力によって児童虐待防止活動に特化した民間団体として設立しました。その4年後1994年6月にAPCA通信1号が発行されました。その間に、電話相談の年間報告書および電話相談から児童虐待を読み解き、情報誌や研究誌、新聞等に情報を発信してきました。一日10件以上、一回60分以上の相談の多くが、子どもをいなめている親からの相談でした。孤立・孤独、独りで子どもを育てる苦悩、自身の生きてきた過程での困難などお聴きする中で、児童虐待防止協会は密室の家庭の中で子どもたちに何が起きているのか、虐待電話相談にかけてこられる数千人の声を社会に発信していく役割があることに気づき、APCA通信を発刊することとなりました。今でも通用するような議論や内容をその時代の出来事とともに様々な情報を25年間発信してきました。

「こちらホットライン」コーナーでは、「育児相談では言えない母親の悩みや叫びを受け止め、ゆっくり話を聴き、そのことから幾らかでも母親の支えになり子どもが生き生きと成長する助けになればと願っています」と綴られた相談員の言葉は、今もメッセージとして受け継がれています。

APCA通信10号(1999年)の「児童虐待について思うこと」では、児童虐待に関係する機関・団体によるネットワークの構築、児童虐待の予防への取り組みが重要課題であると発信していましたが、20年経っても、同じ課題を抱えていることがわかります。



写真1

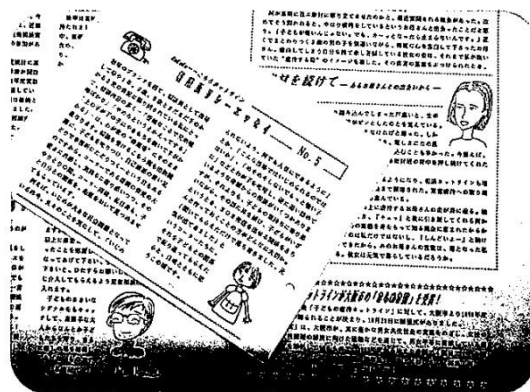


写真2

APCA通信28号(2005年)では、総会報告として・桂浩子事務局長は「今年度も新しい試みに挑戦していきます」と題して「親支援のあり方を再検討、子ども専用虐待ホットラインの開設を視野に入れて、より充実した研修・研究活動をめざす」とあります。虐待予防には親支援は欠かせませんが、その具体策の検討は難しくいままお議論は尽きません。

初代APCAマークは関西テレビ局が子どもを護るイメージで作成、開設時の部屋には初代APCAマークを使用した大看板がありました。1号から8号までのAPCA通信はどれも手作り感満載のB5サイズの4頁ものでした。9号から、お伝えする内容の多さからA4サイズ8頁となりました。16号(2002年)より二代目APCAマークおよび通信のタイトルデザインは現在のものに変更され、業者委託の印刷となりました(写真1)。それまでは相談終了後に、相談員が印刷をして折って封筒詰をし、封筒に住所を書く人と分担し、夜遅くまで数日かけてしていました。それらの作業中に語られる相談員の泣きが相談員リレーエッセイとなり、似顔絵でその人となりを紹介させて頂きました(写真2)。立場や職種の違い相談員それぞれが児童虐待ケースに遭遇する専門職であり、相談を聴く中でAPCA通信読者の方々へお伝えしたいことを書いていましたが、いまでは理事による随想コーナーとして引き継がれています。大阪府共同募金会からの助成を受けて印刷は業者ですが、いまま手作業で読者の方々へ思いを込めてAPCA通信を封筒に詰めています。